

交通災害共済

はり治療にも  
見舞金を支給

4月からの事故に適用

最近、交通事故による受傷の治療に、はり施術が広く行われていることから、見舞金の公平な給付を図るため、昭

和五十七年四月一日以後に発生した交通事故から、受傷者がはり施術を行った場合、その治療費も見舞金の計算基礎に算入されることになりました。はり施術による治療費が請求できるのは、「あん摩、マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」に定められているが、医師の同意を得て交通事故の受傷者に対して行った治療費の実日数です。見舞金を請求するときは、はり師の施術証明書に医師の同意書を添付しなければなりません。くわしいことは、市民課交通公害係におたずねください。



父親の機嫌

詫摩武俊

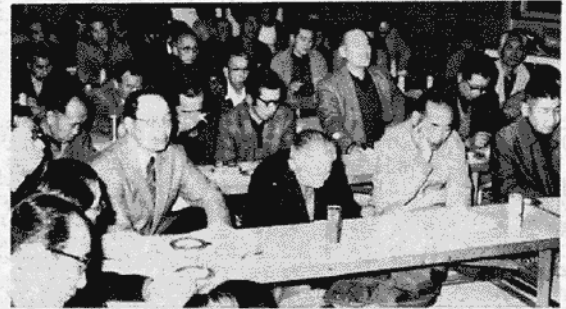
非行少年として補導されたものが、自分の育った家庭を顧みてもおもしろかったとか、楽しかったというものはあまりありません。豊かに、不自由のない生活をしてきたことを認めながら、その家庭の雰囲気は冷たく、潤いがなく、要するにつまらなかつた、ということが多いのです。さらにくわしく聞いてみますと、家庭での父親がいつも不機嫌で、ささいなことでも怒ったり、

むつと黙っていて心の通い合う話などできなかつたといえます。父親は多くの場合、その家庭の中で年齢的にはもつと上で、生活を支えているひとです。その父親が家庭の中で明るく機嫌よく振る舞っているかどうかは、家庭全体の空気を大きく左右します。

父親が機嫌よければ概して母親も機嫌がよく、子どもにも明るい態度で接するようになるものです。家庭外で仕事をもつ父親が帰宅するときには、身体的にも精神的にもかなり疲れているのが普通です。したがっていつもニコニコしているようにというのは無理なことかもしれません。しかし父親は自分の心の状態が家庭の雰囲気に影響することをよく承知していて欲しいと思います。帰宅した父親が職業上の地位など忘れて機嫌よく心を開いていれば、自然に子どもとの心の交流もできてきます。

家庭の中で対話が必要だといわれ、それを促すために標語までつくった市役所もあるそうです。しかしお互いに心を温かにするような対話というものは、「さあこれから対話をしよう」といつて始まるものではありません。お互いに好意をもっているものが気持ちよく話すことによつて心の理解は深まるものです。このことは親と子についても同じようにはまりません。父親が出張で不在だから楽しいという家庭よりも、不在だからつまらないという家庭の方に非行少年は出にくいものです。家庭での父親はまず機嫌よく子どもから好かれていることが必要なのです。

(東京都立大学教授・心理学)



所野で「地区懇談会」

七十人が参加

住民との対話行政を積極的に推進している齋藤市長は、三月十九日に行われた所野自治会(大藤仁一会長)主催の「地区懇談会」に出席し、午後七時から約二時間三十分にあたり、地区の人たち七十人と話し合いをしました。

区住民には切実な問題が提出されました。これらの問題に対し市長は「地域にとつてはもちろんなこと、市としても解決しなければならぬ問題です。実施できるものから早急に解決していきたい」と積極的な姿勢を示しました。切実な問題の討議の中にあつて終始なごやかな雰囲気で行われた「地区懇談会」は好評のうちに終わりました。